第一巻第六号

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治の女子　第一巻第六號　明治三十七年十一月一日發行

教役者のために祈るべき日

本月十三日の安息日は、日本に於ける教役者のために祈るべき日として特に定めらる。神は男子をおのれに導くために男子をして其任に當らしめ給へり、然るに玆に神國の發展を防ぐる最大障害ともいふべきは、全くその身命を献げんことを欲する男女に乏しき一事なりとす。神は一般青年女子に向つておのれの力と救とを示し得べき、日本の青年女子を求め給ふ。かゝる青年女子は主のために其の持てる凡てを捧ぐるの人たらざるべからず。然らば青年女子たるものは、誰かこの祈禱の日に臨み、相共に心を同うして、かの神のものたることを欲する人々が彼等の中より出づるやう、神が導者（みちびくもの）を起し給はんことを懇求せざるを得んや。

萬國女子基督教青年會祈禱週日

十一月十三日より一週日の間は、特に萬國女子基督教青年會の祈禱日と定めらる。五十萬餘の會員が心を同うして、全世界に於ける青年女子のために、神のゆたけき祝福を祈るは、これ實に我等の一大特權にあらずして何ぞや。この一週間に於ける祈禱の要目はこれを下に掲げたり。我等は主のみ名によりて、その要目を讀む凡ての青年女子に、この光榮ある祈禱に加はらんことを勸む。水曜日に於ける祈禱の題目に『亞細亞』とあるは、印度、支那及び日本の意なることを記憶すべし。

〇十一月十三日（日）　祈禱に對する神の招（まねき）。

哥林多後書一〇七。路加傳十八〇四一。約翰傳一六〇二四、

［讃美］「我等を祈禱に招く神は「めぐみのみ位」に座して、我等の求むる處を聽き、これに答へんと待ちた

まふこと。

[祈禱]わが會の各員がこの祈禱に招かれたる光榮と康福とをわきまへ、かつ深くおのれの乏しきを感じ、堅確着實なる懇求をもたらすべきこと。

萬國女子基督敎青年會常務委員のため。

○十一月十四日(月)　祈禱に於ける信賴―『我等が接する主』の光榮ある品性。

馬太傳七〇一一。希伯來書七〇二四―二五。羅馬書八〇二六。希伯來書十〇二三。

[祈禱]我等が神に祈り求むる處を以て、確かに父の與へんと備へ給ふことを證すべき一新機會となすこと、―我等のために設けられたる救主の仲保、―我等の軟弱(よわき)を助くる聖靈の力。

亞弗利加のため

○十一月十五日(火)　交通の一路―失墜する事なき耶蘇の御名。

約翰傳一四〇一三。提摩太前書二〇五。以弗所書二〇一八。一〇六。約翰傳一四〇六。

[祈禱]我等が唯一の賴り所としてイエスのみ名を用ゆるを得るを光榮とし、而しておのが身邊の人々、及び暗路に迷へる國々のものを助けて、神の定め給へるひとりの仲保とひとつの交通の道を彼等に示すべき力を得んがため。

亞米利加のため。

○十一月十六日(水)　祈禱の聖殿―神のみ前。

希伯來書十〇一九、二三。馬太傳六〇六。一八〇廿。希伯來書一一〇六。

[祈禱]我等の祈禱がイエスの血によりて憚る處なく獻げられんがために、よく神のみ前にあることを悟り、かくて日常の生活及び神のために爲す處の勞役が、いづれもきよく、かつ光輝あらんがため。

亞細亞のため

○十一月十七日(木)　祈禱の場所及び時日―『**隨處に**』―『**常に**』。誰のために―『**すべての**ものゝため』。

提摩太前書二〇八。路加傳一八〇一。提摩太前書二〇一。

[祈禱]神我等に懇祈熱禱の精神をそゝぎ給はんこと、而してすべての祈禱同盟員が心を同うして、到る處常に他人のために祈ることを歡喜とすべき『雅量』の與へられんこと。

澳太利のため

○十一月十八日(金) 神のうけ給ふ祈禱の精神――『靈(みたま)によりて』――謙讓、篤信、寛仁、感謝の心を以て。

以弗所書六〇一八。約翰第一書五〇一四。箴言二五〇六。創世紀一八〇二七。馬可傳一一〇二四。雅各書一〇六、改正譯。馬可傳一一〇二五。哥羅西書四〇二。

【祈禱】神はいかなる精神を以ておのれに近づくことを我等に望み給ふか、神の言(ことば)によりてこれを學ばんことを勉め、而してすべての事に於て然るが如く、祈禱の事に於ても『我等の思ひ得るは神に因れる』ことを認め得んがため。

歐洲のため。

○十一月十九日(土) 神の答(みこたへ)の限量

羅馬書十〇一二。希伯來書一一〇六。以弗所書三〇廿―二一

【祈禱】我等が個人として、または團體として、おのれのために備へられたるゆたけき恩寵を受けかつ用ゆるやう心を開き、又『わが酒杯あふるゝ』の故を以て、多くの人々に對して祝福の媒となり得んこと。

歐洲のため

聖書日課

明治三十七年十一月

○一日(火)雅各書一〇一。

ヤコブとはいかなる人ぞ。自ら只僕(しもべ)と呼ばるゝを以て滿足せんとする彼の謙遜を思ふべし。されど彼は主の兄弟なりき(馬太傳一三〇五五)。イエスの生存中に於ては、彼は信者ならざりしが如し(約翰傳七〇五)、されど昇天の後、弟子等と共にありしを見る。(使徒行傳一〇一四。)彼はひそかなる會見にて信者となりしものか(哥林多前書一五〇七)。彼はエルサレムの教會の主なる一人なりしが、後その頭となれり(使徒行傳一二〇一七。一五〇一三―二一。加拉太書一〇一八―一九)。この書もとユダヤの信徒に宛てゝ記したるものなれど、その中また未だ信者とならざるユダヤ人にも書き及ぼせり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

本書の要目

品性の陶冶、人生の目的、品性陶冶の助け及び障礙、品性を利己の爲めに用ゐずして主に仕ふるに用ゆる事。

この書に關する參考書として擧ぐべきは

"Handy Commentary," "Cowles," Farrar's "Early Christianity," "The Wisdom of James the Just" by W. Boyd Carpenter.

本書の大體

○二日(水)雅各書一○一―二七。

試煉及誘惑の品性陶冶に有用なると(二―一八節)。開き得たる眞理は、只これを外形に止めず、誠實なる心よりこれを行うて、初めてその人の品性を樹立することを得べし。(二六―二七節)

○三日(木)雅各書二○一―二六。

みめかたちを誇りてこれを貴しとするは、品性陶冶に於ける根本的障害たるを免れず。(一―一三節)信仰をして價値あるものたらしめんには、よくこれをその行に顯はさざるべからず(一四―二六節)

○四日(金)雅各書三○一―一八。

品性の發達が口舌の罪に妨げらるゝこと、それ果して幾何ぞや。されど上より與へらるゝ智慧によりて、これらの病弊を改むるを得。

○五日(土)雅各書四○一―一七。五○一―六。

口舌より生ずる怖るべき禍害は、我慾に滿てる心より發生し來る。これを救ふの道は、自ら悔改め、かつ心を卑うして神の聖旨に從ふにあり。

○六日(日)雅各書五○七―廿。

忍耐及び祈禱に關する訓誡。最後の勸諭。

本書の細目

○七日(月)雅各書一○二―四

提摩太前書二○三。哥林多前書十○一三。路加傳二一○一九。

品性の樹立を以て、神の我等に對する大目的なりとせば、我等の心意を磨くべき試煉に會するは、寧ろ歡ぶべき事にあらずや。(馬太傳五○四八)。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○八日(火)雅各書一〇五―八。
路加傳一一〇九―一三と比較すべし。我等もし正しく品性をつくり成すの明なくば、かの品性陶冶の大師イエスに往いて、その導を求むより他に道なし。ヤコブはパウロと同じく、信仰を以て信者の品性をうち樹つべき基礎なることを盛んに唱へたり。『二心の人』―馬太傳六〇二四參看。

○九日(水)雅各書一〇九―一一。
富に仕ふること勿れ、その福は束の間のみ。
路加傳一〇五二。『繁昌は舊約の福とする處にして、禍患は新約の福とする處なり』。路加傳六〇廿。一二〇一六―二一。腓立比書三〇七―八。

○十日(木)雅各書一〇一二―一五。
『福なり』―馬太傳五〇三―一二。浮世の富は朽つれど、生命の冠は長へに榮ゆ。幸福は境遇の裡に宿らずして、品性の中に存す。(一三―一四節)。よはきものはおのが失敗によりて境遇を難じ、つよきものは自ら顧みておのれを責む。人或は問うて曰く、神若し毫も罪惡と相係はる處なくば、何故これが存在を默過し給ふやと。されど強ゐられて起り來る愛は、神にとりて全く價値なきものなるを知らずや。試みに思へ、日本の兵士にして、欣然として君國のためにその身命を獻ぐることなく、只戰はねばならぬ故に戰ふものとせば、いかでその勝利と名譽とを衒ふを得んや。
罪惡を棄てこれを斥けて、いやましに强健の人となり、自由に神に仕ふることを得ずんば、我等は善良なる兵士といひ難し。(一五節)罪のはじめを愼めよ。その結果は必ず死に終る。

○十一日(金)雅各書一〇一六―一八。
一六節―加拉太書六〇七を見よ。『光明』創世記一〇一四―一八。これらの光明は變化すれど、その創造者は決して變ることなし(以賽亞書六十〇一九―廿)一八節―彼得前書一〇二三。約翰傳三〇三―八。一〇一二―一三を見よ。この新しき生涯は、神の無上の賜にあらずや。はじめに結べる果は我等自身のた

めにあらず。

『人はおのれのために燈をかゝげず、神も人の爲めに燈をかゝぐ』。

○十二日(土)雅各書一〇一九―二一。

箴言一六〇三二を見よ。『汝二つの耳と一つの口とを有つ』。『我等は『眞の道』によりて新しき生命に入りたれは、この道に心をとめてよくこれを學び、まことの使徒の如くなるべきなり。使徒行傳廿〇三二。救濟。羅馬書一〇一六。彼得前書一〇三―九を讀むべし。

○十三日(日)雅各書一〇二二―二五。

羅馬書二〇一五。馬太傳七〇二四―二七。單に聞くのみにては、決して品性を樹立すること能はず。まことの聽聞―理解は實行と相伴はざるべからず。約翰傳七〇一七。―自由の律法。羅馬書八〇二。『この人その行ふ處福あらん』。『誠實なる勞役者の眼目とする處は、事業の成功にあらずして、その身に及ぶ祝福にあり。その特殊の勞役が世人の眼にいかに映ずるとも敢てこれを問ふの要なし。』

○十四日(月)雅各書一〇二六―二七。

馬太傳一二〇三七。『その舌に轡をつけず』ば語ること速なるを免れず。詩篇一四一〇三と共に本章一九節を比較すべし。―馬太傳二五〇三一―四十を讀むべし。神の爲めに働くはまことの禮拜なり。而してこれと共に心情、生活兩ながら潔からんことを要す。

○十五日(火)雅各書二〇一―四。

『榮の主』といへるヤコブがキリストに對する態度、また『わが兄弟』といへる、彼がその仲間の信徒に對する態度に注意すべし。榮光の主は貧しき者となりて降り給へり。哥林多後書八〇九。腓立比書二〇一八。『正當なる尊敬の基因となるべきもの只三あり、―人格(すべての人を敬ふべし。彼得前書二〇一七)。道德的品位(腓立比書二〇二九。帖撒羅尼迦前書五〇一二―一三)。責任ある働き(羅馬書一三〇一―七。帖撒羅尼迦前書五〇一二)。單に富貴そのものに對しては、敢て敬ふべき處を見ず。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○十六日(水)雅各書二〇五―九。
路加傳四〇一八。馬可傳十〇二三―二七。第六節に於て、記者は必ず不信者を指せるなるべし。ヤコブは固より眞にその兄弟を愛すと雖も、必要あらばまた嚴しく彼等を責むることを躊躇せず。

○十七日(木)雅各書二〇十―一三。
『衣服はその片袖を除くとも、また用ゆるに由なく音樂は一音たりともその調子を失はば、直ちに聲律を破る』。『一條の誡律を破るも、その行爲は不從順の心を表す』。『自由の律法』、約翰傳八〇三二。哥林多後書三〇一七。加拉太書五〇一、一三。この語は惡事を爲すの自由をいふにあらず。自由の律法は愛の律法なり。審判。馬太傳七〇一―二。一八〇二一―三五。シエークスピヤの戲曲『マーチャント、オブ、ヱニス』中にあるポーシャが莊重雄大なる慈悲の說を讀むべし。

○十八日(金)雅各書二〇一四―二六。
この一段は、パウロとヤコブと甚しき反對の見を抱けることを示さんがために、しばしば引用せらるゝを以て著名なり。パウロは信仰を重んじ、ヤコブは行爲を主張す。パウロの書中、一見ヤコブの說く處と相反せるが如き語句なきにあらず、されどもよく前後の語氣を參酌して、細かにこれを研究せば、實際毫も反對せる點なきことを了解すべし。
彼等は信仰及び行爲といへる語を以て、相異れる意味に用ゐたり。パウロは虛飾的儀式若くは心底より出でざる善行を批難し、ヤコブは生命及び實力と相伴はざる智的信仰を非議せり。オーガスチンは次の如くこれを說明せり―或人曰く「われ神を信ず、われこれによりて義とせらるべし。故にわれは自ら欲する處に從つてわが一生を送らん」。ヤコブこれに答ふるに、雅各書二〇二一を以てす。また他の一人曰く「われは善良なる生涯を送りて誡律を守らん、わが信仰の如何はまた何ぞ深く問ふことを要せんや」パウロこれに答ふるに、羅馬書四〇三、廿―二二を以てす。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○十九日(土)雅各書二〇一四―二六。
この一段は緊要にして、二日にわたりてこれを研究するの價値あり。パウロが生ける信仰より出づる働きを信ずること、及びヤコブも亦同じくこの生ける信仰を極めて大切と認めたることを知らんとせば、羅馬書四〇三と雅各書二〇二三、及び羅馬書二〇一三と雅各書一〇二二とを參照すべし。加拉太書五〇六。雅各書一〇六、二〇一、五〇一五。創世記二二〇一―一八。約書亞記二と讀むべし。

○二十日(日)雅各書三〇一―五。
馬太傳二三〇八、一二〇三七。人の師となるの名譽を求むるに熱する勿れ。その地位は人目に立ちて、其の責任は極めて重し。人皆な過ちあり、人の師となるもの、批評の的となるも敢て怪むに足らず。師は殊に箴言十〇一九に述べたる罪に陷るの危險あり。口舌はその人の品性を表現す。馬太傳一二〇三四―三七。克己、自制の精神のありやなしやはその人の口舌によりて見らる。詩篇百廿〇三―四、五二〇二―四。一小些事と雖も、これが善惡兩者に及ばす力の甚だ大なることは、力を極めてこゝに說破せらる。

○二十一日(月)雅各書三〇六―一二。
詩篇百四十〇三。詩篇三九〇一―三。
口舌の害毒怖るべきものあるを知ると共に、またこれが善を爲すの力の大なることをも忘るべからず。口舌は天の焰を以て燃え立たしむることを得(使徒行傳二〇三―四。以賽亞六〇五―八。(九―十節)。すべての受造者の中、神の與へ給へる本性を僞り、本然の我と遠く相背馳するものは、獨り人間あるのみ。馬太傳七〇一六―廿。

○二十二日(火)雅各書三〇一三―一八。
『おのれの黨與に熱中するものは、眞理に不忠なることあるべし』。眞の智慧と僞の智慧とを比較せよ。約百記二八〇一二―一九、二八。箴言三〇一三―一八。『第一に潔く、次に平和』。馬太傳五〇八―九。人を偏(かたより)視(み)ずてふ語は本書二〇一―九を參照べし。智慧につ

きて說けるこの美しき一段は、加拉太書五〇二二—二三と比べみるべし。

○二十三日(水)雅各書四〇一—六。

前章と相反せる所に注意すべし。心内の戰鬪。彼得前書二〇一一。羅馬書七〇二三—二五。されど本章はユダヤ人が羅馬に對して叛亂を企てし頃に記されたるが如し。この叛亂は、後ユダヤ人の敗滅に歸しぬ。我儘勝手なる祈禱は神のみ答を期すべからず。姦婦—神に對しておのが結婚の誓を破りたるもの。以賽亞書五四〇五。耶利米亞記三〇八。哥林多後書二〇二。馬太傳一二〇卅第五節は次の如く譯せば、却て解し易かるべし。『汝等聖書に言へる處を虛きことゝ意ふや。汝のうちにやどれる聖靈は、恣に嫉み給ふことありや』。『更に大なる慈惠』雅各書一〇一七。

○二十四日(木)雅各書四〇七—十。

神に服從することは、最も苦しき修練の一なり。されどこれ即ち惡魔とその働きとを征服する生涯に入るの始なり。神は慈惠を與へんとて常に待ち給ふ。以賽亞書卅〇一八。路加傳一五〇廿—二四。眞の悔改。以西結書一八〇二一—二三。歐林多後書七〇十。馬太傳五〇四。眞の謙讓。以賽亞書五七〇一五。彼得前書五〇五—六。二心の人(雅各書一〇八)及び罪人(詩篇五一〇七)にも尙ほ希望あり。

○二十五日(金)雅各書四〇一一—一二。

馬太傳七〇一—五。羅馬書一四〇一—一三。眞の謙讓に反する慢心は、我等をして兄弟を議せしめ、—尙ほ律法及びこれを定めし神を議せしむ。我等は『己の如く汝の隣を愛すべし』といへる律法に背く時、即ち眞に神の律法を非議するなり。一二節、馬太傳十〇二八を見よ。『救ふことを得る神』—『神はよくこれを立つることを得』と比較すべし。羅馬書一四〇四。

○廿六日(土)雅各書四〇一三—一七。

箴言二七〇一。詩篇百二〇三。歌林多前書四〇一九。ヤコブはかの將來の計をなすものを難じたるにあらずして、人々の利欲に溺るゝの餘り、却つてこれに

誘はれて、神を忘るゝに至ることを尤めたるのみ。かの富める愚者(路加傳一二〇一六―二一)はおのれの計畫中に全く神を入れざりき。かの不忠なる僕(馬太傳二四〇四四―五一)は自ら欺きて主人の久しく歸らざるべきことを信じたり。かゝる我慾の人々は事の正しきを辨へゐれど只これを行はざるのみ。

○二十七日(日)雅各書五〇一―六。

箴言二三〇五、馬太傳六〇一九、路加傳一六〇一九―二五を見よ。この一段はエルサレム滅亡前の富めるユダヤ人(この中信者ありしとせば、そは極めて少數なるべし)とその運命とを描いて明晰を極む。ユダヤの律法は心を用ゐて貧人を保護せり。申命記二四〇一四―一五。耶利米亞記二二〇一三。萬軍の主は耳をかたぶけ給ふ。詩篇七二〇一二―一四。詩篇九〇一二。『拒がず』以賽亞書五三〇七。提摩太後書二〇二四。しば〳〵『義者』と呼ばれたるヤコブは、自らこれらの惡しき富人に殺されたり。

○二十八日(月)雅各書五〇七―一一。

雅各書一〇二―四、一二。苦を與ふる者の罰せらるゝと共に、苦を受くる者は償はるべし。主の來臨はエルサレムの滅亡に先だつこと極めて遠からざりき。主は人々がこの世の短き生涯を終りし後、一々彼等に臨み給ふ。主はやがて力と榮のうちに來給ふべし。七節。我等は大試煉の間に立ちては勿論、日毎の生活に於ても忍耐するを要す。八節。忍ぶこと能はざるは、以ておのれの弱きを見るべし。『汝等の心を堅うせよ』雅各書一〇八。本章九節と默示錄三〇廿。馬太傳二五〇一―一三、路加傳一二〇三五―四十とを比較すべし。十節。希伯來書一一〇三二―三八を見よ。一一節。馬太傳五〇十―一二を見よ。

○二十九日(火)雅各書五〇一二―一五。

馬太傳五〇三三―三七。祈禱と讃美とはいかなる場合にこれをなしても、ふさはしからずといふことなし。膏をそゝぐことは、當時の醫者がしば〳〵病人に與へたる處方なりき。神はそれ〳〵道を設けて―時には隱れたる方法を以て―常に祈禱に答へ給ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

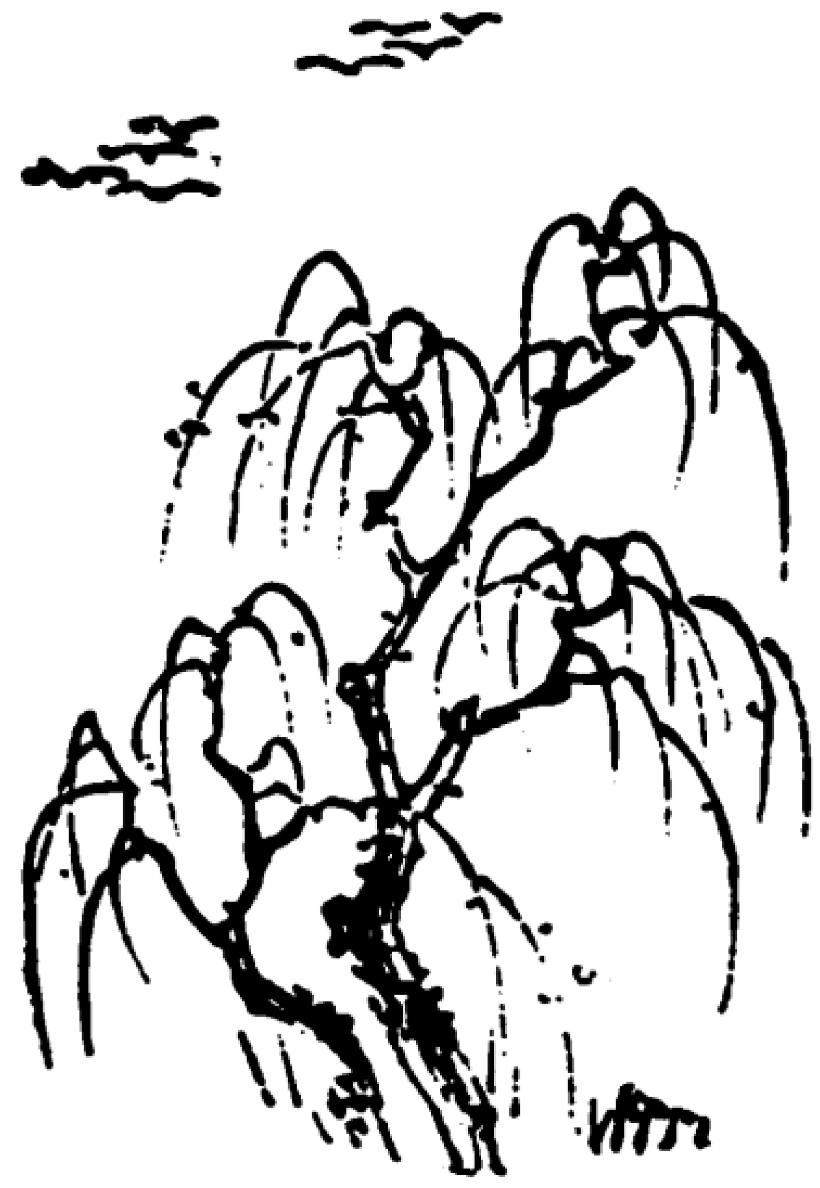
我等は時として特殊の祈禱に對し、特殊の應驗あるを感ずることあり。ニダヤ人はしば〳〵病氣を以てある特殊の罪の結果なりと思へり。この信仰には多少の眞理なきにあらず。約翰傳九〇二―三。馬太傳九〇二―七を見よ。

〇三十日(水)雅各書五〇一六―廿。

列王紀略上一七〇一。一八〇四一―四五。かの膏を沃ぐこと、及び本日の日課にある互に過をいひあらはすことは、羅馬教會に於て信徒の臨終に臨み、沃膏の式を行ひ、また信徒が師父に對して懺悔を告白することゝは、その趣大に異れり。

この書は、おのれの品性を築き立てゝ、キリストと共に働くことを得るに至れる人々にとりて、よく爲し得べき役目を示して、その終を結べり。哥林多後書六〇一。

(スザン、エイ、サール註解)



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Nov. 26. Sat. Jas. 4 : 13-17 Prov. 27 : 1. Ps. 102 : 3. I. Cor. 4 : 19. It is not the making of plans for the future that James condemns, but the forgetfulness of God to which people intent on gain are tempted. The rich fool (Luke 12 : 16-21) did not take God into his plans at all. The unfaithful servant (Matt. 24 : 44-51) made himself believe that the Master would not come for a long time. These selfish planners knew the right but did it not.

Nov. 27. Sun. Jas. 5 : 1-6. See Prov. 23 : 5. Matt. 6 : 19. Luke 16 : 19-25. This passage gives a vivid picture of the rich Jews (including few if any Christians) shortly before the destruction of Jerusalem, aud of their doom. The Jewish law carefully protected the poor. Deut. 24 : 14,15. Jer. 22 : 13. The Lord of Sabaoth (of Hosts) hears. Ps. 72 : 12-14. Ps. 9 : 12. "Doth not resist", Isa. 53 : 7. II. Tim. 2 : 24. James himself, often called "the Just", was murdered by these wicked rich men.

Nov. 28. Mon. Jas. 5 : 7-11. Jas. 1 : 2-4,12. Not only shall the oppressors be punished but the oppressed shall have redress. The Lord's coming in the destruction of Jerusalem was very near. To each individual He comes after the brief life here. By and by He will come in power and glory. Verse 7. We need patience in the every day life as well as in great trials. v. 8. Impatience is a sign of weakness. "Stablish your hearts". Jas. 1 : 8. v. 9. Compare Rev. 3 : 20. Matt 25 : 1-13 Luke 12 : 35-40. v. 10. See Heb. 11 : 32-38. v. 11. See Matt. 5 : 10-12.

Nov. 29. Tues. Jas. 5 : 12-15. Matt. 5 : 33-37. Prayer and praise are suitable under all circumstances. Anointing with oil was in those days a remedy often prescribed by physicians. God answers prayer usually through means, sometimes without apparent means. We may sometimes have a special assurance of answer to some particular prayer. The Jews often considered sickness as the result of some special sin. There is some truth in this belief. See John 9 : 2,3. Matt. 9 : 2-7.

Nov. 30. Wed. Jas. 5 : 16-20. I. Kings 17 : 1 & 18 : 41-45. The extreme unction and confession to the priest of the Roman Catholic church are very different from the anointing with oil and confession one to another of this passage.

The epistle closes with a picture of the blessed service to others possible for those whose character building has fitted them thus to work with Christ. II. Cor. 6 : 1.

Susan A. Searle.

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

for the honor of being teachers. Remember that the teacher has great responsibilities; the position is conspicuous. The teacher has many critics, and there is reason for criticism, for we all make mistakes. The teacher is especially in danger of the sin mentioned in Prov. 10 : 19. The tongue shows character. Matt. 12 : 34-37. Self control, self government or its lack is shown by the tongue. Ps. 120 : 3,4 & 52 : 2-4. The tremendous power for good or evil of small things is here forcibly shown.

Nov. 21. Mon. Jas. 3 : 6-12. Ps. 39 : 1-3. In looking at this terrible picture of the power of the tongue for evil, we must not forget that it has an equal power for good. *It may be set on fire by a heavenly flame.* Acts 2 : 3,4. Isa. 6 : 5-8. (Verses 9,10). Only man of all God's creatures so gives the lie to his God-given nature,—is so inconsistent with himself. Matt. 7 : 16-20.

Nov. 22. Tues. Jas. 3 : 13-18. Conversation means life. "Zeal for your party may be treachery to truth". Contrast between false and true wisdom. Job 28 : 12-19,28. Prov. 3 : 13-18. First pure, then peaceable. Matt. 5 : 8,9. Without partiality may refer to Jas 2 : 1-9. Compare with this beautiful picture of wisdom Gal. 5 : 22,23.

Nov. 23. Wed. Jas. 4 : 1-6. Note the contrast with the preceding verses. War within the soul, I. Pet. 2 : 11. Rom. 7 : 23-25. But this was probably written during the period of insurrection of Jews against Rome which ended in their overthrow. Selfish and wilful prayer need not expect an answer. Adulteresses,—those who have broken their marriage vow to God. Isa. 54 : 5. Jer. 3 : 8. II. Cor. 11 : 2—Matt. 12 : 30. Verse 5 may be translated, "Suppose ye that the Scripture speaketh in vain? Doth the Spirit which took up His abode in you *lust to envy?*" This makes it easier to understand. "More grace". Jas. 1 : 17.

Nov. 24. Thurs. Jas. 4 : 7-10. Submission to God is one of the hardest lessons to learn, but it is the beginning of the life of victory over the devil and his works. God waits to be gracious. Isa. 30 : 18. Luke 12 : 20-24. True penitence. Ezek. 18 : 21-23. II.Cor. 7 : 10. Matt.5 : 4. True humility. Isa. 57 : 15. I. Pet. 5 : 5,6. There is hope even for the double minded (Jas. 1 : 8) and sinners (Ps. 51 : 7).

Nov. 25. Fri. Jas. 4 : 11,12. Matt. 7 : 1-5. Rom. 14 : 1-13. Opposite to true humility is the pride which makes us judge a brother,--even judge the law and the God who made it. This we really do when we set ourselves against His law "Thou shalt love thy neighbor as thyself". Verse 12, see Matt. 10 : 28. "The God who is able to save"—compare "The Lord hath power to make him stand" Rom. 14 : 4.

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Nov. 14. Mon. Jas. 1 : 26,27, Matt. 12 : 37. "Bridleth not his tongue", is not slow to speak. Compare verse 19 with Ps. 141 : 3.-Read Matt. 25 : 31-40. *Service* is true worship. With this must be coupled purity of heart and life.

Nov. 15. Tues. Jas. 2 : 1-4. Note the attitude of James toward Christ, "the Lord of glory", toward his fellow Christian, "my brethren". The Lord of glory became a poor man. II Cor. 8 : 9. Phil. 2 : 1-8. "Only three grounds of respect are legitimate—manhood (Honor all men, I Pet. 2 : 17), moral worth (Phil. 2 : 29. I. Thess. 5 : 12,13), and responsible office (Rom. 13 : 1-7. I. Thess. 5 : 12). Mere riches confer no title to respect".

Nov. 16. Wed. Jsa. 2 : 5-9. Luke 4 : 18. Mark 10 : 23-27. In verse 6 the author must refer to non-Christians. James, loving his brethren truly, yet does not hesitate to reprove severely when necessary.

Nov. 17. Thurs. Jas. 2 : 10-13. "A garment is torn though you take away only one piece of it, a harmony in music is spoiled if only one voice be out of tune". Breaking one precept involves the spirit of disobedience. "The law of liberty", John 8 : 32. II. Cor. 3 : 17. Gal. 5 : 1,13. This does not mean liberty to do wrong. The law of liberty is the law of love. Judgment, Matt. 7 : 1,2 & 18 : 21-35. Read Portia's magnificent speech on mercy in Shakespeare's Merchant of Venice.

Nov. 18. Fri. Jas. 2 : 14-26. This passage is famous because it has been used many times to show that Paul and James were bitterly opposed, Paul advocating faith and James, works. There are some verses in Paul's writings which seem at first to be opposed to the teaching of James, but if we study them carefully in connection with their context we shall see that there is no real opposition. They were using the *words* works and faith in different senses. Paul opposed outward ceremonies or good works which did not come from the heart, James opposed an intellectual belief without life and power. Augustine explains it in this way:—One man will say, "I believe in God and it will be counted to me for righteousness, therefore I will live as I like". St. James answers, Jas. 2 : 21. Another says, "I will lead a good life, and keep the commandments; how can it matter what I believe?" St. Paul replies, Rom. 4 : 3,20-22.

Nov. 19. Sat. Jas. 2 : 14-26. This passage is important enough for a second day's study. To show that Paul believes in the works that grow out of a living faith, and that James regards this living faith as *vital*, compare Rom. 4 : 3 and Jas. 2 : 23, also Rom. 2 : 13 with Jas. 1 : 22. Gal. 5 : 6. Jas. 1 : 6 &2 : 1 &5. Read Gen. 22 : 1-18. Josh. 2.

Nov. 20. Sun. Jas. 3 : 1-5. Matt. 23 : 8 & 12 : 37. Do not be eager

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

21 : 19. Temptations here mean trials. If character forming is God's great purpose for us we may well rejoice in the trials which strengthen us. Perfect means complete. (Matt. 5 : 48).

Nov. 8. Tues. Jas. 1 : 5-8. Compare Luke 11 : 9-13. If we lack the wisdom to form character aright to whom shall we go but to the great Master Builder? James, no less than Paul, emphasizes faith as at the very foundation of Christian character. "A double minded man"—see Matt. 6 : 24.

Nov. 9. Wed. Jas. 1 : 9-11. Do not try to serve Mammon. His blessings do not last. Luke 1 : 52. "Prosperity is the blessing of the Old Testament, Adversity is the blessing of the New." Luke 6 : 20. Luke 12 : 16-21. Phil. 3 : 7,8.

Nov. 10. Thurs. Jas. 1 : 12-15. "Blessed"—Matt. 5 : 3-12. The riches of this world fade, the crown of life is unfading. Happiness lies in character not in circumstances. (Verses 13,14) "The weak man blames circumstances for his failures, the strong man examines and blames himself." Some people ask why God allows evil if He has no connection with it. But love that was compelled would be of no value to God. Suppose the Japanese soldiers fought because they must, instead of giving their lives gladly for their Emperor and their country. Would they gain success and honor? Unless we choose God's service freely, rejecting evil and growing strong by resisting it, we are not good soldiers. (v. 15). Beware the *beginnings* of sin, the end is always death.

Nov. 11. Fri. Jas. 1 : 16—see Gal. 6 : 7. "Lights" Gen. 1 : 14-18. These lights may vary, their Creator is unchanging. Isa. 60 : 19, 20. v. 18-see I. Pet. 1 : 23. John 3 : 3-8. John 1 : 12,13. This new birth is God's most precious gift. First fruits, not for ourselves.

"God does as men
With candles do—not light them for themselves."

Nov. 12. Sat. Jas. 1 : 19-21. See Prov 16 : 32. "Thou hast two ears and one mouth." Since "by the word of truth" we are born into the new life, let us listen to this word and learn from it as true disciples. Acts 20 : 52. Salvation. Rom. 1 : 16. Read 1. Pet. 1 : 3-9.

Nov. 13. Sun. Jas. 1 : 22-5. Rom. 2 : 13. Matt. 7 : 24-27. Hearing alone can never build character. True hearing—understanding—and doing must go together. John 7 : 17—The law of liberty. Rom. 8 : 2. "Blessed in his doing." "The point is not the success of the action but the blessing which comes to the honest doer, whether the special act is successful in human eyes or not".

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Sat. Nov. 19. The Divine Measure of Answer. Rom. 10. 12; Heb. 11. 6; Eph. 3. 20, 21.

Prayer: For Europe.

OUR BIBLE READINGS.

November, 1904.

Nov. 1. Tues. Jas. I : I. Who was this James? Note his modesty, claiming only the title of servant. However, he was the Lord's brother. (Matt. 13 : 55). Probably he was not a believer during the lifetime of Jesus (John 7 : 5), but he was found with the disciples after the ascension. (Acts 1 : 14.) Perhaps he was converted at a private interview. (I Cor. 16 : 7.) He was a leader in the Jerusalem church, and later its head. (Acts 12 : 17, & 15 : 13-21. Gal. 1 : 18,19.)

The letter was written primarily to Jewish Christians, but with reference also to Jews not yet Christians.

GENERAL SUBJECT.

The formation of character the end of life. Helps and hindrances to character building. Character to be used not selfishly but for service.

Outline Study.

Reference books recommended for this study: "Handy Commentary," "Cowles"; Farrar's "Early Christianity"; "The Wisdom of James the Just", by W. Boyd Carpenter.

Nov. 2. Wed. Jas. 1 : 1-27. The use of tricls and temptations in character building. (verses 2-18). The truth heard is built into character by doing it, (vs. 19-25) not in outward form but in real heart service (vs. 26,27).

Nov. 3. Thurs. Jas. 2 : 1-26. Pride and respect of persons are radical hindrances to character building. (vs. 1-13). Faith to be of any value must work itself out in loving service. (vs. 14-26).

Nov. 4. Fri. Jas. 3 : 1-18. How sins of the tongue hinder the growth of character. But the wisdom from above (Jas. 1 : 5) will correct these evils.

Nov. 5. Sat. Jas 4 : 1-17 &5 : 1-6. The source of the terrible evils wrought by the tongue is a heart full of selfish desires. The remedy is repentance and humble submission to God's will.

Nov. 6. Sun. Jas. 5 : 7-20. Exhortations to patience and prayer. Final counsels.

Detailed Study.

Nov. 7. Mon. Jas. 1 : 2-4,11. Tim. 2 : 3.1. 10 Cor. 10 : 13. Luke

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Young Women of Japan

Vol. I November 1904 No. 6

DAY OF PRAYER FOR CHRISTIAN WORKERS.

Sabbath, Nov. 13th, is set apart as a Day of Prayer for Christian Workers in Japan. It is through men that God has chosen to win men and the greatest hindrance to the growth of His kingdom is that there are not men and women who are willing to be wholly His. God needs young women in Japan in whom He may show forth His power. They must be those who will lay *all* at His feet. Will not all young women unite on this Day of Prayer in beseeching God to raise up leaders among them who will be willing to be *God-possessed?*

WORLD'S Y. W. C. A. WEEK OF PRAYER.

Sun. Nov. 13. The Royal Invitation to Prayer. 2 Chron. 1. 7; Lu. 18. 41; John 16, 24.

Prayer: For the World's Y. W. C. A. Executive Committee.

Mon. Nov. 14. Our Confidence in Prayer—the Glorious Character of "Him with Whom we have to do." Matt. 7. 11; Heb. 7. 24. 25.

Prayer: For Africa.

Tues. Nov. 15. The One Way of Access-the Unfailing Name, Jesus! John. 14. 13; 1 Tim. 2. 5; Eph. 1. 2. 18, 1. 6; John. 14. 6.

Prayer: For America.

Wed. Nov. 16. Our Divine Temple of Prayer—His Presence. Heb. 10. 19, 22; Matt. 6. 6; Matt. 18. 20; Heb. 11. 6.

Prayer: For Asia.

Thurs. Nov. 17. The Place and Time of Prayer—"Every where"—"Always." And for Whom—"For All. I. Tim. 2. 8; Lu. 18. 1.

Prayer: For Australasia.

Fri. Nov. 18. The Spirit of Prayer Acceptable to God—"In the Spirit;" Humble; Believing; Forgiving; "With Thanksgiving." Eph. 6. 18; 1. John. 5. 14. Prov. 25. 6. Gen. 18. 27; Mk. 11. 24; James. 1. 6. R. V.; Mk. 11. 25; Col. 4. 2.

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA